

【表紙】

【提出書類】 四半期報告書

【根拠条文】 金融商品取引法第24条の4の7第1項

【提出先】 関東財務局長

【提出日】 平成25年6月14日

【四半期会計期間】 第14期第3四半期(自平成25年1月1日至平成25年3月31日)

【会社名】 株式会社オウケイウェイヴ

【英訳名】 OKWave

【代表者の役職氏名】 代表取締役社長 兼 元 謙 任

【本店の所在の場所】 東京都渋谷区恵比寿一丁目19番15号

【電話番号】 03-5793-1191 (代表)

【事務連絡者氏名】 取締役経営管理本部長 野 崎 正 徳

【最寄りの連絡場所】 東京都渋谷区恵比寿一丁目19番15号

【電話番号】 03-5793-1191 (代表)

【事務連絡者氏名】 取締役経営管理本部長 野 崎 正 徳

【縦覧に供する場所】 株式会社名古屋証券取引所
(名古屋市中区栄三丁目8番20号)

第一部 【企業情報】

第1 【企業の概況】

1 【主要な経営指標等の推移】

回次		第13期 第3四半期 連結累計期間	第14期 第3四半期 連結累計期間	第13期
会計期間		自 平成23年7月1日 至 平成24年3月31日	自 平成24年7月1日 至 平成25年3月31日	自 平成23年7月1日 至 平成24年6月30日
売上高	(千円)	1,126,800	1,665,093	1,531,961
経常利益又は経常損失()	(千円)	94,412	74,357	116,277
四半期(当期)純利益又は 四半期純損失()	(千円)	69,924	322,150	94,035
四半期包括利益又は包括利益	(千円)	65,267	319,382	91,562
純資産額	(千円)	1,992,689	1,682,163	2,018,983
総資産額	(千円)	2,231,402	2,307,244	2,336,576
1株当たり四半期(当期)純利益 金額又は1株当たり四半期純損失 金額()	(円)	8.13	37.44	10.94
潜在株式調整後1株当たり四半期 (当期)純利益金額	(円)	8.09		10.85
自己資本比率	(%)	89.0	72.8	86.1

回次		第13期 第3四半期 連結会計期間	第14期 第3四半期 連結会計期間
会計期間		自 平成24年1月1日 至 平成24年3月31日	自 平成25年1月1日 至 平成25年3月31日
1株当たり四半期純利益金額又は1 株当たり四半期純損失金額()	(円)	5.33	1.95

- (注) 1. 当社は四半期連結財務諸表を作成しておりますので、提出会社の主要な経営指標等の推移については記載しておりません。
2. 売上高には消費税等を含んでおりません。
3. 第1四半期連結会計期間において1株につき100株の株式分割を行いました。前連結会計年度の期首に当該株式分割が行われたと仮定し、1株当たり四半期(当期)純利益金額又は1株当たり四半期純損失金額()及び潜在株式調整後1株当たり四半期(当期)純利益金額を算定しております。
4. 当第3四半期連結累計期間の潜在株式調整後1株当たり四半期純利益金額については、潜在株式は存在するものの1株当たり四半期純損失であるため、記載しておりません。

2 【事業の内容】

当第3四半期連結累計期間において、当社グループ(当社及び当社の関係会社)において営まれている事業の内容について、重要な変更はありません。

なお、第2四半期連結会計期間において、株式会社ブリックス及び株式会社ワールドマーケティングを子会社化しました。これにより当第3四半期連結会計期間より同社の損益について連結範囲に含めており、「多言語CRM事業」及び「営業アウトソーシング事業」を報告セグメントとして追加しております。

第2 【事業の状況】

1 【事業等のリスク】

当第3四半期連結累計期間において、当四半期報告書に記載した事業の状況、経理の状況等に関する事項のうち、投資者の判断に重要な影響を及ぼす可能性のある事項の発生又は前事業年度の有価証券報告書に記載した「事業等のリスク」についての重要な変更はありません。

なお、重要事象等は存在していません。

2 【経営上の重要な契約等】

当第3四半期連結会計期間において、経営上の重要な契約等の決定又は締結等はありません。

3 【財政状態、経営成績及びキャッシュ・フローの状況の分析】

(1) 業績の状況

全般的概況

当第3四半期連結累計期間(平成24年7月1日～平成25年3月31日)におけるわが国経済は、輸出環境の改善やマインドの改善にも支えられ、次第に景気回復へ向かうことが期待されておりますが、引き続き、海外景気の下振れが景気を下押しするリスクもあります。

当社は、株式会社ブリックスを平成24年10月に子会社化いたしました。当四半期の決算作業の過程で、株式会社ブリックスの取引先である株式会社ワールドマーケティングに対し、多額の売掛金の未回収残高があることが判明いたしました。このことから、速やかに弁護士並びに公認会計士の協力も得て社内調査を行ったところ、株式会社ワールドマーケティングは株式会社ブリックスが実質的に経営を支配していることが明らかになりました。

上記に伴い、さらに関連する取引調査を行ったところ、株式会社ブリックスは、当社が子会社化を検討する際に提出を受けた財務諸表等において負債の過少計上等を行っており、これらは株式会社ブリックスが増資や借入を円滑に進めることを目的として、株式会社ワールドマーケティングとの間で不適切な会計処理を行っていたものであることが判明しました。

この不適切な会計処理を修正したことに伴い、株式会社ブリックスは平成24年9月30日現在で債務超過の状態にあり、企業価値が毀損していたことから、株式会社ブリックスへの当社投資額とこれに対応する株式会社ブリックスの資本との相殺消去にあたって発生した差額、247百万円を関係会社投資損失といたしました。

株主・投資家の皆様、市場関係者の皆様及びお取引先様をはじめ関係者の皆様に多大なるご迷惑とご心配をおかけし、心より深くお詫び申し上げます。

株式会社ブリックスを除いた連結部分におきましては、売上高は「OKWave」のPV数が好調に伸長したことやソーシャルコマースサービスの売上高が増収したことから、堅調に推移しております。

利益につきましては、市場動向を鑑みた結果、引き続き、既存サービスの機能拡充や現在注目度の高いビッグデータ解析・分析サービスといった新サービスへの投資を積極的に行っていくほか、米国Davia, Inc.からの事業買収をはじめとするグローバル展開に伴う投資を行っていくことが先決と考えたことから減益となっております。

	当第3四半期 連結累計期間 (千円)	前第3四半期連結累計期間比	
		増減額(千円)	増減率(%)
売上高	1,665,093	538,293	47.8
営業損失()	77,364	168,462	
経常損失()	74,357	168,769	
四半期純損失()	322,150	392,075	

セグメントの概況

第2四半期連結会計期間において、株式会社ブリックスを子会社化しました。これにより当第3四半期連結会計期間より同社の損益について連結範囲に含めており、「多言語CRM事業」及び「営業アウトソーシング事業」を報告セグメントとして追加しております。

・ポータル事業の概況

ア．ソーシャルメディア(サービス名：OKWave, OKGuide, OKetter, OKWave ありがとう, OKMusic)

ソーシャルメディア領域では、ソーシャルメディアの運営による広告販売を行っております。

当第3四半期連結累計期間につきましては、Q&Aサイト「OKWave」のメディア力の向上に注力したことからPV数が前期比136%増の175百万PVとなりました。また、「OKWave」内に医療・健康領域を中心に利用者ならびに広告主のターゲットを絞り込んだ専門特化型サイト「ライフデザイン by OKWave」の立ち上げを行い、3月には第1弾となる「てんかん患者の人生を変えるプロジェクト」の提供を開始しました。

ソーシャル多言語コミュニティ「OKWave ありがとう」におきましては海外で人気の高い日本のアニメーション作品との積極的なコラボレーションを進め、「映画ドラえもん のび太のひみつ道具博物館(ミュージアム)」「ドラゴンボールZ 神と神」の映画公開と合わせて「OKWave ありがとう」上で利用できる、両作品特製の「ありがとうメッセージ用キャラクターシール」をユーザ向けに提供し、新規ユーザの獲得、利用機会の拡大に向けた取り組みを展開してまいりました。また、米国でのサービス展開の始動に向け、平成25年4月に米国Davia, Inc.のデジタルグリーティングカード事業を取得いたしました。これによりDavia, Inc.の同事業が有する1,000万人以上の登録会員の獲得と現地での企画・開発体制が構築できたことから、来期のサービス提供に向けサービス構築をしていく予定となっております。

連結子会社株式会社オーケーライフで運営しているソーシャル・ミュージック・サイト「OKMusic」におきましては、ユーザの自作曲からインディーズ・アーティスト、メジャーレコード会社所属アーティストに至るまで1,550万曲以上の楽曲が試聴できます。また、独自取材による記事や有名アーティストのインタビューなどの、最新の音楽ニュースが得られる音楽総合サイトへと発展を遂げています。また、独自取材の音楽ニュースについてはポータルサイト等の外部サイトへの配信も開始しており、そこからさらに「OKMusic」の認知拡大につながっています。

イ．ソーシャルCRM(サービス名：おけたーエンタープライズ, OKCorporation, 国際化支援ソリューション OKWave ありがとう)

ポータル事業のソーシャルCRM () 領域では、創業当時より蓄積してきたQ&A のデータベースを様々な形で企業に貸し出しするサービスの提供を行っております。

当第3四半期連結累計期間におきましては、企業の認知度向上を支援するツール「おけたーエンタープライズ」を活用し、複数の企業を相乗りさせて相乗効果を上げるコラボレーション企画「おけたー新生活応援キャンペーン」を実施しました。また、「OKWave ありがとう」を用いた企業の国際化支援ソリューションの提供も開始しました。

CRM：カスタマー・リレーションシップ・マネジメント(顧客満足度を向上させるために、顧客との関係を構築することに力点を置く経営手法)

ウ．ソーシャルコマース(サービス名：myFave, Abilie, 会員ビジネス)

ソーシャルコマース領域では、一般の方が個人間で知識やスキルを売買できるソーシャルコマースサイト「Abilie」() 日本マイクロソフト株式会社との共同事業であるショッピングSNS「myFave」及び専門家に1対1で直接質問することができる有料携帯サイトやベストセラー作家の公式有料携帯サイトの運営を行っております。

知識やスキルを売買できる「Abilie」におきましては、ベストセラー書籍などを音声で聴けるオーディオブックを扱う株式会社オトバンクとの連携を本格化させたほか、情報処理試験対策特集を行うなど、一般の方の知識やスキルの売買にとどまらず、専門家や専門知識の販売者の積極的な誘致を図り、売買する知識やスキルの対象を広げています。

「myFave」では正式公開後の半年間で得られたユーザのサイト利用動向や要望をはじめとするマーケティングデータを基にサイトのリニューアルに着手しました。

有料携帯サイトについては、スマートフォンの利用者拡大に合わせて、新たに「イノベーションベースボール」と「クイズ王の雑学塾」をスマートフォンで提供開始し、収益拡大に努めました。

ポータル事業	当第3四半期 連結累計期間 (千円)	前第3四半期連結累計期間比	
		増減額(千円)	増減率(%)
売上高	549,417	87,301	18.9
セグメント損失()	84,915	110,112	

「Abilie」は2013年5月21日に「High500(ハイファイブ・ハンドレッド)」にサービス名称の変更を行っております。

・ソリューション事業の概況

ソーシャルCRM(サービス名：OKBiz)

ソーシャルCRM（ソリューション事業）では、お問合わせを一元管理し、重複するお問合わせを削減することで業務効率化やコスト削減、CS（顧客満足度）向上を図るソリューション製品を主に期間貸しをするクラウドサービスの形式で提供しています。とくに主力製品のFAQ（よくある質問と回答）システム「OKBiz」につきましては、長年にわたって市場シェア1位を維持しています。

当第3四半期連結累計期間につきましては、販路拡大や新規顧客獲得に向けた取り組みを実施してきました。導入企業の協力による定期セミナーの実施や、前期からOKBizとのプロダクト連携を進めてきたアライアンス・パートナーとの共催セミナーを東京に加えて大阪でも実施するなど、新規顧客開拓に注力しています。

ソリューション事業	当第3四半期 連結累計期間 (千円)	前第3四半期連結累計期間比	
		増減額(千円)	増減率(%)
売上高	663,549	1,134	0.2
セグメント利益	298,203	39,295	11.6

・多言語CRM事業の概況

連結子会社、株式会社ブリックスの主要な事業である多言語CRM事業におきましては、24時間365日体制で運営する多言語（現在は英語・中国語・韓国語・ポルトガル語・スペイン語の5言語）のコンタクトセンターを運営し、カスタマーサポート業務を提供しています。クライアントとその顧客間のコミュニケーションを、電話を介した通訳、もしくはメールなど即時性が求められる問い合わせの簡易翻訳を通してサポートするというものです。また、クライアントからの依頼によっては、カスタマーサポートを目的としたバイリンガル人材の派遣も提供しております。

当第3四半期連結累計期間におきましては、海外市場に進出する企業からのカスタマーサポート業務の受託ビジネスが伸長しました。特にソーシャルゲーム開発会社における海外ユーザからの多言語メール対応の取引額が大きくなりました。取引先企業数は1年間で175%増（平成23年12月93社、平成24年12月163社）と大幅に進捗しています。

多言語CRM事業	当第3四半期 連結累計期間 (千円)	前第3四半期連結累計期間比	
		増減額(千円)	増減率(%)
売上高	299,571		
セグメント利益	69,712		

・営業アウトソーシング事業の概況

営業アウトソーシング事業は、短期・中期的に、顧客企業が必要とする販売スタッフを、業務請負及び派遣契約により労働力を提供して収益向上を支援するのが主たる業務内容です。主な人材請負・派遣の対象分野は、FTTHなど固定通信事業者の個人・法人向け通信サービスの新規ユーザ獲得です。正社員を中心として営業チームを構成していることが特長で、万全の教育体制のもと、クオリティの高い営業活動が可能となっています。また、競合他社がテレマーケティングを中心とする展開であるのに対し、訪問・対面営業を主体とする営業手法をとっており、ここでも、営業活動における品質の違いを生み出すことができます。

当第3四半期連結累計期間におきましては、大手通信キャリアが展開しているSOHO向けの光ファイバー回線の営業展開が大きく伸長しました。平成24年8月時点では首都圏のみの展開でありましたが、同年10月以降、北関東や東北・関越エリアにも拡大し、ここにおける新規ユーザ獲得業務が増大しました。

営業アウトソーシング事業	当第3四半期 連結累計期間 (千円)	前第3四半期連結累計期間比	
		増減額(千円)	増減率(%)
売上高	152,554		
セグメント利益	11,968		

(2) 財政状態の分析

(ア)資産

当第3四半期連結会計期間末における資産残高は、主に現金及び預金の減少により2,307,244千円（前連結会計年度末比29,331千円減少）となりました。

(イ)負債

当第3四半期連結会計期間末における負債残高は、主に新規連結子会社の増加に伴う買掛金、未払金及び未払費用の増加により625,080千円（前連結会計年度末比307,488千円増加）となりました。

(ウ)純資産

当第3四半期連結会計期間末における純資産は、主に利益剰余金の減少により1,682,163千円（前連結会計年度末比336,820千円減少）となりました。

(3) 事業上及び財務上の対処すべき課題

当第3四半期連結累計期間において、当社グループの事業上及び財務上の対処すべき課題に重要な変更及び新たに生じた事項はありません。

第3 【提出会社の状況】

1 【株式等の状況】

(1) 【株式の総数等】

【株式の総数】

種類	発行可能株式総数(株)
普通株式	19,320,000
計	19,320,000

【発行済株式】

種類	第3四半期会計期間 末現在発行数(株) (平成25年3月31日)	提出日現在 発行数(株) (平成25年6月14日)	上場金融商品取引所名 又は登録認可金融商品 取引業協会名	内容
普通株式	8,607,000	8,607,000	名古屋証券取引所 (セントレックス)	(注)2
計	8,607,000	8,607,000		

(注)1. 「提出日現在発行数」欄には、平成25年6月1日からこの四半期報告書提出日までの新株予約権の行使により発行された株式数は含まれておりません。

(注)2. 完全議決権株式であり、株主としての権利内容に制限のない、標準となる株式であります。なお、当社は平成24年7月1日より単元株制度を採用しており、単元株式数は100株であります。

(2) 【新株予約権等の状況】

該当事項はありません。

(3) 【行使価額修正条項付新株予約権付社債券等の行使状況等】

該当事項はありません。

(4) 【ライツプランの内容】

該当事項はありません。

(5) 【発行済株式総数、資本金等の推移】

年月日	発行済株式 総数増減数 (株)	発行済株式 総数残高 (株)	資本金増減額 (千円)	資本金残高 (千円)	資本準備金 増減額 (千円)	資本準備金 残高 (千円)
平成25年1月1日～ 平成25年3月31日		8,607,000		969,439		939,239

(6) 【大株主の状況】

当四半期会計期間は第3四半期会計期間であるため、記載事項はありません。

(7) 【議決権の状況】

【発行済株式】

平成25年3月31日現在

区分	株式数(株)	議決権の数(個)	内容
無議決権株式			
議決権制限株式(自己株式等)			
議決権制限株式(その他)			
完全議決権株式(自己株式等)			
完全議決権株式(その他)	普通株式 8,607,000	86,070	
単元未満株式			
発行済株式総数	8,607,000		
総株主の議決権		86,070	

【自己株式等】

平成25年3月31日現在

所有者の氏名又は名称	所有者の住所	自己名義 所有株式数 (株)	他人名義 所有株式数 (株)	所有株式数 の合計 (株)	発行済株式 総数に対する 所有株式数 の割合(%)
計					

2 【役員 の状況】

(1) 退任役員

役名	職名	氏名	退任年月日
取締役		稲本 敏生	平成24年11月30日

(注) 取締役 稲本 敏生は、会社法第2条第15号に定める社外取締役でありました。

第4 【経理の状況】

1．四半期連結財務諸表の作成方法について

当社の四半期連結財務諸表は、「四半期連結財務諸表の用語、様式及び作成方法に関する規則」(平成19年内閣府令第64号)に基づいて作成しております。

2．監査証明について

当社は、金融商品取引法第193条の2第1項の規定に基づき、第3四半期連結会計期間(平成25年1月1日から平成25年3月31日まで)及び第3四半期連結累計期間(平成24年7月1日から平成25年3月31日まで)に係る四半期連結財務諸表について、有限責任監査法人トーマツによる四半期レビューを受けております。

1【四半期連結財務諸表】
(1)【四半期連結貸借対照表】

(単位：千円)

	前連結会計年度 (平成24年6月30日)	当第3四半期連結会計期間 (平成25年3月31日)
資産の部		
流動資産		
現金及び預金	1,130,637	800,356
受取手形及び売掛金	219,172	423,358
有価証券	300,000	300,000
その他	79,173	82,434
貸倒引当金	8,660	854
流動資産合計	1,720,323	1,605,294
固定資産		
有形固定資産		
建物及び構築物	66,558	66,558
減価償却累計額	24,298	33,417
建物及び構築物(純額)	42,259	33,141
工具、器具及び備品	408,279	424,838
減価償却累計額	319,895	334,595
工具、器具及び備品(純額)	88,383	90,243
有形固定資産合計	130,643	123,384
無形固定資産		
ソフトウェア	131,372	197,431
ソフトウェア仮勘定	75,184	80,359
のれん	13,681	1,407
その他	12,756	14,898
無形固定資産合計	232,995	294,097
投資その他の資産		
投資有価証券	50,583	40,653
その他	241,114	281,994
貸倒引当金	39,082	38,180
投資その他の資産合計	252,614	284,467
固定資産合計	616,253	701,950
資産合計	2,336,576	2,307,244

(単位：千円)

	前連結会計年度 (平成24年6月30日)	当第3四半期連結会計期間 (平成25年3月31日)
負債の部		
流動負債		
買掛金	19,074	124,486
未払金及び未払費用	174,012	257,696
未払法人税等	20,531	755
短期借入金	-	102,221
1年内返済予定の長期借入金	7,188	3,900
賞与引当金	-	6,000
その他	52,189	93,210
流動負債合計	272,995	588,270
固定負債		
長期借入金	16,172	4,520
資産除去債務	28,425	32,290
固定負債合計	44,597	36,810
負債合計	317,592	625,080
純資産の部		
株主資本		
資本金	966,521	969,439
資本剰余金	936,321	939,239
利益剰余金	122,255	221,391
株主資本合計	2,025,098	1,687,287
その他の包括利益累計額		
その他有価証券評価差額金	62	17
為替換算調整勘定	12,089	8,007
その他の包括利益累計額合計	12,152	8,025
新株予約権	3,308	1,531
少数株主持分	2,729	1,370
純資産合計	2,018,983	1,682,163
負債純資産合計	2,336,576	2,307,244

(2)【四半期連結損益計算書及び四半期連結包括利益計算書】

【四半期連結損益計算書】

【第3四半期連結累計期間】

(単位：千円)

	前第3四半期連結累計期間 (自平成23年7月1日 至平成24年3月31日)	当第3四半期連結累計期間 (自平成24年7月1日 至平成25年3月31日)
売上高	1,126,800	1,665,093
売上原価	537,216	1,098,870
売上総利益	589,584	566,222
販売費及び一般管理費	498,485	643,586
営業利益又は営業損失()	91,098	77,364
営業外収益		
受取利息	1,384	885
為替差益	913	9,514
貸倒引当金戻入額	900	990
雑収入	701	2,178
営業外収益合計	3,900	13,567
営業外費用		
支払利息	104	1,366
雑損失	482	9,194
営業外費用合計	586	10,560
経常利益又は経常損失()	94,412	74,357
特別利益		
投資有価証券売却益	2,126	-
新株予約権戻入益	-	473
特別利益合計	2,126	473
特別損失		
固定資産除却損	1,740	5,823
投資有価証券評価損	457	-
投資有価証券売却損	1,895	-
関係会社投資損失	-	247,362
特別損失合計	4,093	253,185
税金等調整前四半期純利益又は税金等調整前四半期 純損失()	92,445	327,068
法人税、住民税及び事業税	35,916	2,718
法人税等調整額	12,539	6,277
法人税等合計	23,376	3,559
少数株主損益調整前四半期純利益又は少数株主損益 調整前四半期純損失()	69,069	323,509
少数株主損失()	855	1,359
四半期純利益又は四半期純損失()	69,924	322,150

【四半期連結包括利益計算書】
【第3四半期連結累計期間】

(単位：千円)

	前第3四半期連結累計期間 (自平成23年7月1日 至平成24年3月31日)	当第3四半期連結累計期間 (自平成24年7月1日 至平成25年3月31日)
少数株主損益調整前四半期純利益又は少数株主損益 調整前四半期純損失()	69,069	323,509
その他の包括利益		
その他有価証券評価差額金	0	45
為替換算調整勘定	3,801	4,081
その他の包括利益合計	3,801	4,126
四半期包括利益	65,267	319,382
(内訳)		
親会社株主に係る四半期包括利益	66,123	318,023
少数株主に係る四半期包括利益	855	1,359

【連結の範囲又は持分法適用の範囲の変更】

当第3四半期連結累計期間 (自 平成24年7月1日 至 平成25年3月31日)
(1) 連結の範囲の重要な変更 第2四半期連結会計期間より、新たに株式を取得した株式会社ブリックスとその子会社である株式会社ワールドマーケティングを連結の範囲に含めております。

【会計方針の変更等】

当第3四半期連結累計期間 (自 平成24年7月1日 至 平成25年3月31日)
(会計上の見積りの変更と区別することが困難な会計方針の変更) 当社及び国内連結子会社は、法人税法の改正に伴い、第1四半期連結会計期間より、平成24年7月1日以後に取得した有形固定資産については、改正後の法人税法に基づく減価償却の方法に変更しております。 これによる、当第3四半期連結累計期間の売上総利益、営業損失、経常損失及び税金等調整前四半期純損失に与える影響は軽微であります。

【追加情報】

当第3四半期連結累計期間 (自 平成24年7月1日 至 平成25年3月31日)
(賞与引当金) 賞与支給見込み額のうち、当第3四半期連結累計期間の負担額を賞与引当金として計上しております。なお、賞与引当金は株式会社ブリックスを連結の範囲に含めたことにより発生したものであります。

【注記事項】

(四半期連結損益計算書関係)

関係会社投資損失

株式会社ブリックスへの投資に関連して発生したものであります。

当社は、平成24年10月に株式譲受及び第三者割当増資の引受けにより同社を連結子会社化しましたが、その後の社内調査により当社の投資以前から同社において増資や借入れを円滑に進める目的として、不適切な会計処理が行われていたことが判明しました。

この不適切な会計処理を修正したことに伴い、同社は平成24年9月30日現在で債務超過の状況にあり企業価値が毀損していたことから、四半期連結財務諸表においては、当社の投資額とこれに対応する同社の資本の相殺消去にあたって発生した差額を関係会社投資損失として計上しております。

(四半期連結キャッシュ・フロー計算書関係)

当第3四半期連結累計期間に係る四半期連結キャッシュ・フロー計算書は作成しておりません。なお、第3四半期連結累計期間に係る減価償却費(のれんを除く無形固定資産に係る償却費を含む。)及びのれんの償却額は、次のとおりであります。

	前第3四半期連結累計期間 (自 平成23年7月1日 至 平成24年3月31日)	当第3四半期連結累計期間 (自 平成24年7月1日 至 平成25年3月31日)
減価償却費	176,232千円	203,960千円
のれんの償却額	760	12,694

(株主資本等関係)

前第3四半期連結累計期間(自平成23年7月1日至平成24年3月31日)

1. 配当金支払額

決議	株式の種類	配当金の総額 (千円)	1株当たり 配当額(円)	基準日	効力発生日	配当の原資
平成23年9月23日 定時株主総会	普通株式	21,488	250.00	平成23年6月30日	平成23年9月27日	利益剰余金

2. 基準日が当第3四半期連結累計期間に属する配当のうち、配当の効力発生日が当第3四半期連結会計期間の末日後となるもの
該当事項はありません。

当第3四半期連結累計期間(自平成24年7月1日至平成25年3月31日)

1. 配当金支払額

決議	株式の種類	配当金の総額 (千円)	1株当たり 配当額(円)	基準日	効力発生日	配当の原資
平成24年9月22日 定時株主総会	普通株式	21,496	250.00	平成24年6月30日	平成24年9月25日	利益剰余金

2. 基準日が当第3四半期連結累計期間に属する配当のうち、配当の効力発生日が当第3四半期連結会計期間の末日後となるもの
該当事項はありません。

(セグメント情報等)

【セグメント情報】

前第3四半期連結累計期間(自平成23年7月1日至平成24年3月31日)

1. 報告セグメントごとの売上高及び利益又は損失の金額に関する情報

(単位：千円)

	報告セグメント			調整額 (注)1	四半期連結損益 計算書計上額 (注)2
	ポータル事業	ソリューション 事業	計		
売上高					
外部顧客への売上高	462,116	664,683	1,126,800		1,126,800
セグメント間の内部 売上高又は振替高					
計	462,116	664,683	1,126,800		1,126,800
セグメント利益	25,197	337,498	362,696	271,597	91,098

(注)1 セグメント利益の調整額は、全社費用であります。全社費用は、主に報告セグメントに帰属しない管理部門等に係る費用であります。

2 セグメント利益は、四半期連結損益計算書の営業利益と調整を行っております。

2. 報告セグメントごとの固定資産の減損損失又はのれん等に関する情報

該当事項はありません。

当第3四半期連結累計期間(自平成24年7月1日至平成25年3月31日)

1. 報告セグメントごとの売上高及び利益又は損失の金額に関する情報

(単位：千円)

	報告セグメント					調整額 (注)1	四半期連結 損益計算書 計上額 (注)2
	ポータル事業	ソリューション事業	多言語 CRM事業 (注)3	営業アウト ソーシング 事業 (注)3	計		
売上高							
外部顧客への売上高	549,417	663,549	299,571	152,554	1,665,093		1,665,093
セグメント間の内部売上高 又は振替高		2,500	2,217		4,717	4,717	
計	549,417	666,049	301,789	152,554	1,669,811	4,717	1,665,093
セグメント利益又は セグメント損失()	84,915	298,203	69,712	11,968	294,969	372,333	77,364

(注)1 セグメント利益の調整額は、全社費用であります。全社費用は、主に報告セグメントに帰属しない管理部門等に係る費用であります。

2 セグメント利益は、四半期連結損益計算書の営業利益と調整を行っております。

3 第2四半期連結会計期間において、株式会社ブリックス及び株式会社ワールドマーケティングを子会社化しました。これにより当第3四半期連結会計期間より同社の損益について連結範囲に含めており、「多言語CRM事業」及び「営業アウトソーシング事業」を報告セグメントとして追加しております。

2. 報告セグメントごとの資産に関する情報

第2四半期連結会計期間において、新たに株式を取得した株式会社ブリックスとその子会社である株式会社ワールドマーケティングを連結の範囲に含めております。これにより、前連結会計年度の末日に比べ、当第3四半期連結会計期間の報告セグメントの資産の金額は、「多言語CRM事業」セグメントにおいて145,929千円、また、「営業アウトソーシング事業」セグメントにおいては76,248千円、それぞれ増加しております。

(1株当たり情報)

1株当たり四半期純利益金額又は1株当たり四半期純損失金額及び算定上の基礎並びに潜在株式調整後1株当たり四半期純利益金額及び算定上の基礎は、以下のとおりであります。

項目	前第3四半期連結累計期間 (自平成23年7月1日 至平成24年3月31日)	当第3四半期連結累計期間 (自平成24年7月1日 至平成25年3月31日)
(1) 1株当たり四半期純利益金額又は 1株当たり四半期純損失金額()	8円13銭	37円44銭
(算定上の基礎)		
四半期純利益金額又は 四半期純損失金額()(千円)	69,924	322,150
普通株主に帰属しない金額(千円)		
普通株式に係る四半期純利益金額又は 四半期純損失金額()(千円)	69,924	322,150
普通株式の期中平均株式数(株)	8,597,282	8,605,398
(2) 潜在株式調整後1株当たり四半期純利益金額	8円09銭	
(算定上の基礎)		
四半期純利益調整額(千円)		
普通株式増加数(株)	493	
希薄化効果を有しないため、潜在株式調整後1株当たり 四半期純利益金額の算定に含めなかった潜在株式で、前 連結会計年度末から重要な変動があったものの概要	会社法に基づく 新株予約権2種類 (新株予約権の数 160個)	

(注) 当社は、平成24年6月1日開催の取締役会決議に基づき、平成24年7月1日付で株式1株につき100株の株式分割を行っております。そのため、前連結会計年度の期首に当該株式分割が行われたと仮定して1株当たり四半期純利益金額又は1株当たり四半期純損失金額()及び潜在株式調整後1株当たり四半期純利益金額を算定しております。

なお、当第3四半期連結累計期間の潜在株式調整後1株当たり四半期純利益金額については、潜在株式は存在するものの1株当たり四半期純損失であるため、記載しておりません。

(重要な後発事象)

重要な事業の譲受

当社の米国子会社OKWave, Inc.は、平成25年4月1日に米国Davia, Inc.（本社：米国カリフォルニア州、CEO：Logan Deans）から、パースデーカレンダーアプリなどのデジタルグリーティングカード事業を譲り受ける契約を締結した。

(1) 目的

取得するサービスはオウケイウェイヴが運営する20カ国語対応のソーシャル多言語コミュニティ「OKWave ありがとう」(<http://arigato.okwave.com/>)等との親和性が高く、両サービスとの連携を進めることで、「OKWave ありがとう」のさらなる活性化を図るとともに、米国を拠点に日本を含む海外へサービス展開を進めていく考えです。

(2) 譲り受ける相手会社

Davia, Inc.

(3) 譲り受ける事業の内容

パースデーカレンダーなどのウェブサイト(Davia.com)及び有料アプリなどのデジタルグリーティングカード事業

(4) 譲り受ける資産・負債の額

Davia, Inc.から譲り受ける重要な資産・負債はありません。

(5) 譲受の時期

平成25年4月1日

(6) 譲受対価

500千USドル

上記にはアドバイザリー費用等の付随費用は含まれておりません。

2 【その他】

該当事項はありません。

第二部 【提出会社の保証会社等の情報】

該当事項はありません。

独立監査人の四半期レビュー報告書

平成25年 6月14日

株式会社オウケイウェイヴ

取締役会 御中

有限責任監査法人 トーマツ

指定有限責任社員
業務執行社員 公認会計士 阿 部 功 印

指定有限責任社員
業務執行社員 公認会計士 菊 地 徹 印

当監査法人は、金融商品取引法第193条の2第1項の規定に基づき、「経理の状況」に掲げられている株式会社オウケイウェイヴの平成24年7月1日から平成25年6月30日までの連結会計年度の第3四半期連結会計期間(平成25年1月1日から平成25年3月31日まで)及び第3四半期連結累計期間(平成24年7月1日から平成25年3月31日まで)に係る四半期連結財務諸表、すなわち、四半期連結貸借対照表、四半期連結損益計算書、四半期連結包括利益計算書及び注記について四半期レビューを行った。

四半期連結財務諸表に対する経営者の責任

経営者の責任は、我が国において一般に公正妥当と認められる四半期連結財務諸表の作成基準に準拠して四半期連結財務諸表を作成し適正に表示することにある。これには、不正又は誤謬による重要な虚偽表示のない四半期連結財務諸表を作成し適正に表示するために経営者が必要と判断した内部統制を整備及び運用することが含まれる。

監査人の責任

当監査法人の責任は、当監査法人が実施した四半期レビューに基づいて、独立の立場から四半期連結財務諸表に対する結論を表明することにある。当監査法人は、我が国において一般に公正妥当と認められる四半期レビューの基準に準拠して四半期レビューを行った。

四半期レビューにおいては、主として経営者、財務及び会計に関する事項に責任を有する者等に対して実施される質問、分析的手続その他の四半期レビュー手続が実施される。四半期レビュー手続は、我が国において一般に公正妥当と認められる監査の基準に準拠して実施される年度の財務諸表の監査に比べて限定された手続である。

当監査法人は、結論の表明の基礎となる証拠を入手したと判断している。

監査人の結論

当監査法人が実施した四半期レビューにおいて、上記の四半期連結財務諸表が、我が国において一般に公正妥当と認められる四半期連結財務諸表の作成基準に準拠して、株式会社オウケイウェイヴ及び連結子会社の平成25年3月31日現在の財政状態及び同日をもって終了する第3四半期連結累計期間の経営成績を適正に表示していないと信じさせる事項がすべての重要な点において認められなかった。

利害関係

会社と当監査法人又は業務執行社員との間には、公認会計士法の規定により記載すべき利害関係はない。
以 上

(注) 1 上記は、四半期レビュー報告書の原本に記載された事項を電子化したものであり、その原本は当社(四半期報告書提出会社)が別途保管しております。

2 四半期連結財務諸表の範囲にはXBRLデータ自体は含まれていません。